

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



May						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

May 2023 vol.109

◆今福堤防決壊の碑

所在地：岐阜県大垣市今福町

交通：名神高速道路「大垣」IC 東約 1.5km

水の都・大垣は、古くから清らかな水に恵まれ、発展を遂げてきました。市内には20か所以上の湧き水スポットがあり、市により湧き水マップが作成されています。長らく水の恩恵を受けてきた大垣ですが、ときに大雨による河川の氾濫などで、災害にも見舞われてきました。近年では、平成14(2002)年7月の台風による豪雨で、450戸以上が床上・床下浸水する被害に遭っています。

さらにさかのぼって明治29(1896)年、この年は、7月と9月の二度にわたり水害に見舞われました。この水害は明治29年洪水と呼ばれ、7月は低気圧、9月は台風により、いずれも記録的な豪雨で河川が氾濫し、大垣では屋根だけ残して1階部分が水につかる軒上浸水が、当時の町の80%を超えました。また、広い地域で被害が発生し、岐阜県全体での犠牲者は200人以上に上っています。

大垣市内の揖斐川堤防には、今福堤防決壊の碑があります。堤防決壊の地と刻まれたこの碑は、明治29年洪水で、7月と9月にこの場所で堤防が決壊したことを示しています。7月の洪水では、西濃地域の輪中では、加納・森部・牧を除く全ての輪中が決壊し、その復旧も終わらない9月12日に再び大洪水となり、再び今福地点が破堤して、大垣輪中全体が浸水しました。9月の洪水の浸水量は極めて大きく、大垣では市街地もほぼすべてが浸水し、市中は舟を使っ



今福堤防決壊の碑

移動しかできないほどの状況となり、多くの人々が行き場を失いました。また、決壊箇所から6km以上離れた大垣城にまで水が到達し、石垣の一部が水につかりました。この洪水の痕跡は、天守閣石垣の西北角に残されており、「明治29年大洪水点」の標柱とともに、明治29年9月の洪水でここまで水が来たという事実が、地域の人々に受け継がれています。

市内には、輪中の人々の生活の工夫を示した、輪中生活館があります。たびたび水害に見舞われた輪中の人々は、水害の際に家の中で避難生活を続けるため、普段生活する母屋とは別に、水屋と呼ばれる住居の一部を高い石垣の上に作りました。また、さらに一段高い場所に土蔵式水屋を設け、文書や帳簿などの資料を保管する蔵としての機能を持たせました。輪中生活館は、市指定重要有形民俗文化財の旧名和邸を整備したもので、輪中地帯の典型的な中農民家の様式を見ることができます。なお、近くの輪中館では、江戸時代から現在までの輪中の歴史や景観が、模型を用いて解説されています。



(上) 洪水時のラインと、大洪水点の標柱
(下) 住居式水屋(左奥)と土蔵式水屋(右)
写真提供(3枚共)：(一社)中部地域づくり協会



災と Seeing (4) 明治29年洪水

(http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_04.html) もぜひ併せてご覧ください。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 宝珠院 (vol.44,2017.12)

所在地：西尾市吉良町吉田石池

交通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅北西約300m

『明治22年高潮』は、明治22(1889)年9月11日に愛知県を襲った台風によるもので、11日午後紀伊半島から濃尾平野に到達し、午後7時頃に名古屋付近を北東に進み、翌12日に三陸方面へ抜けたルートをとりました。

幡豆郡吉田村外七カ村水害実記によれば、幡豆郡の七カ村付近の堤防では35箇所が切れ3km以上にわたり決壊し、家屋の全壊・流失は314棟、死者は401名にも及んだとされています。愛知県の死者は876名であり、半数近くがこの七カ村周辺で発生していることがわかります。

七カ村のひとつ、吉田村(現在の西尾市吉良町吉田)の宝珠院の門前には、この明治22年高潮の惨状を伝える海嘯記念碑があります。この碑は明治28年に吉田字伝蔵荒

子に建てられ、後に県道工事に伴い吉田小学校に移転、その後、現在地に移転してきたもので、碑文には、当時の様子が克明に描かれています。

「高いところでは4.6m水がきて、水死者は387人、負傷者は数えきれない。家、舟、荷車は富田や饗庭のほうまで流れていった。潮が引いている間に死体を片づけた。泥水の中に腐敗しているものを見つけ、衣服から家族だと分かると抱いて泣きさけび、その声は天にとどくほどであった。堤防はほとんど流され、直すのが大変で葬式をする暇さえなかった。(部分要約)」

宝珠院の門前には、海嘯記念碑と並び、犠牲者の冥福を祈念した三界萬霊碑も安置されています。



(左) 海嘯記念碑
(右) 三界萬霊碑

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.44 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ 大垣まつり

大垣まつりは、大垣市の総鎮守・大垣八幡神社の例祭に行われる山車行事です。1648年に八幡神社が再建整備されたのを機に始まったもので、藩主から下賜されたやまと町衆のやまが併存する形態が全国的に希少であることなどが評価され、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

1日目の試楽では、大垣八幡神社に全てのやまが参集し、からくり人形や子どもの手踊りなどが演じられます。2日目の本楽では、13輦のやまが行列を組み、1日かけて城下町を巡行します。両日夜に行われる夜宮では、各やまに提灯を灯し、順番に奉迎したのち、やまを前に傾け左右に回転させる、やま廻しが行われます。たくさんの提灯で彩られたやまが勢いよく華やかに動く様は、昼間とは一味違った雰囲気です。



大垣市HPより

～鉄道で巡る～

大垣駅は、JR東海道本線、JR美濃赤坂線に加え、北は揖斐、南は養老から桑名までを結ぶ養老鉄道、本巣を経て水鳥、樽見とを結ぶ樽見鉄道が乗り入れるターミナル駅です。

水の都・大垣の玄関口らしく、北口・南口に湧き水スポットがあります。

表面で取り上げた輪中生活館・輪中館は、養老鉄道で大垣駅から南へ3駅10分の友江駅から徒歩すぐです。



●ブレイクタイム●

♪ 大垣城

大垣城は全国的にも珍しい4層の天守を持つ、城下町大垣のシンボルです。天文4(1535)年の創建とされ、天正13(1586)年の天正地震で全壊焼失しますが、すぐに再建され、関ヶ原の戦いでは、西軍・石田三成の本拠地にもなりました。昭和20年7月の大垣空襲でも焼失、昭和34年に天守が再建されています。

城内には関ヶ原の戦いにまつわる資料の展示があり、火縄銃や槍などの体験コーナーもあります。最上階の展望台からは、関ヶ原の戦いで東軍が布陣した岡山方面を始め、大垣市内の風景を一望できます。



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年5月)